



世界を巡る、歴史を翔る

## 中部大学民族資料博物館が新たに誕生！

1992年に開設された中部大学民俗資料室。常設展示に加え、趣向を凝らした企画展や体験実習室をそろえ、2011年4月、中部大学図書館内に新たに開館しました。

### 館長あいさつ

中部大学は、1キャンパスのなかに、国際関係学部から工学部生命健康科学部まで7学部29学科という、多くの異なる専門を集めつないでいます。

そのうちのひとつである国際関係学部は、創設から27年の年月が経ち、その間に研究者たちが海外のフィールドワークの折に生活資料を集めてきました。今春リニューアルオープンした当館の基盤はそういった研究者たちの努力によって収集した資料を多く収蔵しています。多くの分野が向き合う環境が整いつつある今こそ、これらの資料を「教材」という「財産」として、より多くの人々へ向けて有効に活用するときに迎えたと思っています。

当館は分野を越えた「結び目」として、世界にある多様な生き方、多様な知のあり方、多様な価値観がつどい出会い、地域の社会人としての、そして地球人としての人間の生き方を発見し、ともに学び、ともに創造する場として大きく発信していきたいと考えています。



開館式でテープカットをする和崎館長(4月26日)

### 索引

館長あいさつ	1	7月 ◇ギャラリートーク	4
2011 上半期行事報告		「博物館をより楽しむために」 千葉成夫／福山泰子	
4月 民族資料博物館開館式	2	8月 ◇オープンキャンパス	5
5月 ◇研究展示		国際文化学科 中野智章	
「中国伝統楽器 弦楽器～シルクロードの風を聴く」		幼児教育学科 花井忠征	
「中国琵琶ギャラリーコンサート／楽器解説」 宗ティンティン		児童教育学科 下川辰彦	
「絵画解説」 児童教育学科 下川辰彦		◇研究展示	6
「世界遺産検定対策勉強会」 国際文化学科 杵谷茂樹	3	夏休み企画「世界の民族と文化探検ツアー」	
6月 ◇研究展示		9月 ◇ワークショップ	
「世界を翔る国際関係学部－実践的教育の成果の発表」		開館記念特別講座「古典絵画(絹絵)を描く」	
国際関係学科 加々美康彦		全12回スタート	
国際文化学科 中野智章		2011 下半期(秋季冬季) 行事案内	7
中国語中国学科 和田知久		2012 春季行事(予告)	
		委員等紹介(民族資料博物館運営委員)	8

# 4 月 中部大学民族資料博物館 開館式

2011年4月26日(火)、14時より民族資料博物館開館式を行いました。

春日井市長を来賓に迎え、学内外の関係者約70名の方々へ、新しくなった展示室を披露しました。式典には学内各部署の協力も得て実現しました。

## 副館長より

皆様、こんにちは。私は、本年の4月から副館長の職を拝命しました。それまでは博物館の準備室長として皆様には大変お世話になりました。微力でしたが何とか中部大学民族資料博物館として開館することができました。この紙面をかりて、改めて皆様にお礼いたします。ただ、博物館としてまだ生まれたてのよちよち歩きです。これから、どう一人前に成長させるか課題です。私の好きな言葉に「生きている博物館」、「出会と発見の博物館」、「交流と繋がり博物館」という語があります。その実現のためには、収蔵資料と展示内容の充実、企画展示や講演会等の充実など、なすべきことが山積しています。幸い、博物館には見識豊かな委員と少数精鋭な職員の方々で構成されています。その方々と一体となって、できることから着実に活動していきたいと思っています。このニュースレターはその活動内容を紹介する広報誌であるとともに、博物館と皆様を繋ぐ重要な媒体であると思っています。皆様からの忌憚のないご意見やご指摘を頂けると幸いです。宜しく申し上げます。

# 5 月 ■ 研究展示 「中国伝統楽器 弦楽器～シルクロードの風を聴く」

|| 展示 || 5月20日(金)～6月2日(木) 多目的室ほか || 演奏会と解説 || 5月29日(日)



演奏会(シルクロード室にて)



絵画解説



楽器解説(多目的室にて)

■ 中国琵琶ギャラリーコンサート・楽器解説 宗ティンティン(中国語中国関係学科 講師/中国琵琶奏者)

## 「文人の魂が隠れる中国古代楽器」

民俗資料室が念願の博物館に拡充し、開館して初めての展示会ということで各方面から熱い応援をいただきました。私が所有する多くの楽器のなかからシルクロードを代表する楽器と、そして唐時代を代表する焼き物「唐三彩」の壺や衣装などの小物も合わせて約15点あまりを博物館内の多目的室で展示しました。中国伝統楽器の最大の特色は、その華やかさです。特に古代中国の貴族や王族たちにとって楽器を奏することは、神とコミュニケーションをとる手段であったため、楽器を神器として宝石や高価な螺鈿細工などで高度な技術を使い華麗に制作させました。日本の正倉院に伝わった「唐代紫檀螺鈿五弦琵琶」はまさに

その一例です。今回の展示品の「紫檀琵琶」や「黒檀彫刻21弦古筝」「玉軸古琴」などは鑑賞価値と研究価値を持つ珍品でもありました。楽器の持ち主が、自分の理想郷の絵を楽器に彫り、自分の哲学を持ちながら奏で、内面的な感情を音色に表現して訴えることにより、また聴衆は想像力をより豊かにすることができるのです。

このような演奏者と聴き手の楽器を通じた共通の「夢」の実現こそが、中国の歴代文人に求められる不可欠な教養でもありました。古代楽器に含まれている精神とその哲学を皆様と共有するために、今後もこうした展示会を続けていきたいと思っています。

■ 絵画解説 下川辰彦(児童教育学科 准教授/日本美術院特待)

博物館のリニューアルオープンに合わせて新設された展示室「シルクロード室」の展示作品の一つ『西安追想～平和への巡幸』(2008年)について、作者である私から、演奏会の折にお客様に向けて簡単な作品解説をした。

日本美術院の創立に関わった岡倉天心の伝統文化と国際文化に対する熱い思いを継承し現在の私たち作家が活動していることを少しでも伝えることができるならば、という描き手の秘めた心情を紹介させていただいた。



5  
月

## ■ レクチャー

## 世界遺産検定対策勉強会

杓谷茂樹（国際文化学科 教授） || 実施 || 5月25日（水）

体験実習室で、世界遺産検定対策勉強会を実施しました。

世界遺産検定は、最近では観光業界などでは必須の資格になりつつありますが、国際文化学科では、昨年度より授業のなかで世界遺産を通じた他文化理解の学びを取り入れており、この「せかけん」の受検を勧奨してきました。

今回は7月の検定に備えて、全学の受検希望者が自由に参加できるよう、本学の博物館内で実施しました。初回だったこともあり、認知度はまだ低いのですが、参加者全員であらかじめ準備された公式テ

キストや過去問題集などに熱心に取り組みました。

今回の参加者のほとんどが検定3級に合格。でもその次のターゲットとして観光業界をはじめ就職に有利になる2級合格者はまだ出ていません。次回12月の検定を目標に、また対策勉強会を開催する予定ですので、次こそはと願っています。さらに、いつかは（観光業界のエキスパートと肩を並べる）1級合格へ、と皆の切磋琢磨を期待しています。当然、私たち教員も精一杯サポートしていくつもりです。

6  
月

## ■ 研究展示

## 「世界を翔る国際関係学部—実践的教育の成果の発表」

|| 展示 || 6月15日（水）～17日（金） | 民族資料博物館 / 多目的室 |

本学が3日間にわたり近隣の高校関係者へ向けて大学説明会を開催するにあたり、当館では、国際関係学部の学部学科紹介のパネル展示を実施し、近況の国際関係、国際文化に関する大学における研究の動向を紹介する機会となりました。

## ■ 国際関係学科 加々美康彦（国際関係学科 准教授）

国際関係学科の展示では、青木澄夫教授（日本アフリカ関係史）の研究室の2005年から毎年実施するフィールドワークを特集した。「海外自主ゼミ研修」として、これまでタンザニアで5回、インドネシアで4回実施され、参加学生は計32名、研修日数は延べ160日にのぼる。「NATO (No Action Talk Only) からの脱却」をモットーとする同研究室の研修は、単に現場を「見る」だけでは終わらない。学生には徹底的な調査が求められ、成果は詳細な報告書（タンザニア版『Karibuni

Tanzania（タンザニアへようこそ）』、インドネシア版『Terima kasih（どうもありがとう）』として公表され、新聞紙上で取り上げられることも多い。また、今回の展示では学科教員編集テキスト『国際関係を学ぶキーワード&基本英文集』も紹介しました。本学科では毎年6月、同テキスト準拠（及び公務員試験等も視野）の「全学年共通テスト」を実施しているが、成績上位者の表彰式は、今や学科の初夏の風物詩となっている。

## ■ 国際文化学科 中野智章（国際文化学科 准教授）

本パネル展示では、国際文化学科の特徴である「実体験を活かした学び」の様子をさまざまなトピックに絡めて紹介した。例として、1年次秋学期に野外民族博物館リトルワールド（愛知県犬山市）で行われる実地研修に向け、世界各地の人々の暮らしや住居についてあらかじめ文献調査を行い、それを現地で確かめると共に、新たに気づいたことについて大学で再調査を実施し、年度末にパワーポイント等を用いて発表すること、2年次ではオハイオ大学における長期研修など、留学体

験を学科の重要な学びの柱に位置づけていること、そしてそうした学びの姿勢は3年次以降のゼミで更に深められ、中部大学国際ESDセンターにおける「グリーン・ニューディール」の研究発表（河内ゼミ）や屋久島でのフィールドワーク（杓谷ゼミ）などにつながっており、さらにはそれを形に残して就職活動にも活かすべく、「世界遺産検定」などの資格取得に結びつけるよう指導している様子を示した。

## ■ 中国語中国関係学科 和田知久（中国語中国関係学科 講師）

本学科は、日中間の文化交流事業の際に学生たちが行った中国語通訳などの活動を紹介したパネルとともに、一年生による北京夏期研修時の現地調査報告のパネルを展示した。私も何度か多目的

室の様子を見に行った。その際には、和崎学部長からの説明を聞きながら興味深げに展示を見ていた高校教員の方がたにもお会いして、私たちの学科や学部について紹介することができたりもした。



学部紹介

とりわけ北京研修のパネルは一年生が作成したもののだけに、未熟さやたどたどしさがうかがえるところも多々あったが、高校を卒業して半年もたため学生たちが、ときに習いたての中国語を用い、慣れない北京の街で発見し調査を行ったその成果に彼らの初々しくも真摯な学びの姿を感じ取っていただければと思い展示することにした。国際関係学部にも籍を置く私たちにとっては、学びの場は講義棟の教室だけではない。学習研究対象である世界各地の「現場」への架け橋としての民族資料博物館を、今後ともさまざまなかたちで有効に活用していきたいと思っている。

## 7月 ■ ギャラリートーク 「博物館をより楽しむために」

|| 日時 || 7月21日(木) | 民族資料博物館／多目的室 |

■ ギャラリートーク 千葉成夫 (人文学部共通教育科 教授／博物館学担当)

### 「私が美術館学芸員だった頃」

私は1975年10月に東京国立近代美術館学芸員となり25年6ヶ月勤めた。美術館の裏側はどういうものか、学芸員は実際にどういう仕事をしているのか—「ある学芸員の一日」を語るというかたちで、その概略を話した。あわせて近代・現代美術館の実際を理解してもらおうと試みた。1975年は、日本の近代美術館の活動が展開期に入っていた頃で、予算も人員も設備も経験もまだまだだったにも拘らず、美術館創設期からの「熱」と「自由」の雰囲気が基調となっていたと

いってよい。それが1990年代を回ると、美術館活動はいわば「収縮期」に入る。経験は増えたが、予算と人員は増えず、設備も(学芸員の眼から見れば)それほど進歩したわけではない。そこに、日本の世の中全体がそうだが、なんでもかんでも「管理」を厳しくするという状況が襲ってきた。「中身」よりも「外形」が大事になったのだ。私は、その途中で美術館を離れた。結局、私がいたのはまだ「古き良き」時代の美術館だった、ことになるのだろうか？

ギャラリートーク



■ ギャラリートーク 福山泰子 (人文学部共通教育科 准教授／博物館学担当)

### 「インド仏教美術 — 仏像はなぜ生まれたか? —」

今回はインド仏教美術のなかから仏像の誕生を取り上げた。紀元前5世紀、インドで釈迦が創始した仏教は、紀元後1世紀後半～2世紀に至るまで仏像の出現を見なかった。では、どこで、どのように仏像は生み出されたのか? 仏像の誕生をみるまで、ブッダはストゥーパ(仏塔、卒塔婆)や仏足跡などで象徴的に表されていたが、その状況を一変させたのは釈迦がかつて活動していたインド内部ではなく、現在のパキスタン北部(ガンダーラ地方)・アフガニスタン北部からインド北

部を支配したクシャーン朝(イラン系遊牧民)の存在、そして彼らの信仰したゾロアスター教の思想や造形に対する態度、西方との文化交流、アレクサンダー大王遠征以来のギリシア文化などが重層的に積み重なり、仏像を生む文化的土壌を形成していたことを画像や年表資料を提示し、解説した。講演後は、本学博物館所蔵のコレクションを実際に観察していただき、化粧皿の図像の意味や、仏頭については南インド出土の仏頭断片との比較から図像的特徴の理解につなげた。



■ 国際文化学科 | 8月5日(金)～7日(土) | 中野智章 (国際文化学科 准教授)

## 国際文化学科オープンキャンパス

国際文化学科オープンキャンパス催事の 일환としてこれまで旧民俗資料室で行ってきた民族衣装の試着や民族楽器の試用を、新装となった民族資料博物館内体験実習室にて開催した。実物を直に手にとって学ぶことができるのは、他大学にはない、当学科の国際文化教育における大きな特徴である。

民族資料博物館が誇る豊富な民族衣装の試着

は、男女を問わず、またキャンパスを訪れた幅広い年齢層の来館者に好評を博した。他方、民族楽器のなかには音を容易に出すことが難しいものもあり、学生アシスタントのアドバイスを受けながら、懸命に挑戦する姿も見られた。3日間で百数十人が訪れる盛況となり、当博物館のコレクションを認知してもらう良い機会となった。



民族衣装と楽器体験



わんぱく隊参加の子どもたち



絵画工作制作

■ 幼児教育学科 | 8月6日(土) | 花井忠征 (幼児教育学科 教授/フレンドシップ活動代表)

## 「わんぱく隊」民族資料博物館での世界一周クイズラリーに大満足」

目をまんまるに輝かせ、「わーっ、すごい」「カッコいい」「これなに？」子どもたちの歓声が民族資料博物館内に湧き上がった。

8月6日に第4回フレンドシップ活動“わんぱく隊”に参加した66名の子どもたちが、民族資料博物館で世界一周クイズラリーに挑戦したときの光景である。博物館から“わんぱく隊”に館内を利用してほしいと依頼されたときは、正直、子どもたちには難しいのではないかと思った。しかし、担当学生が子どもの目線に立って、工夫を凝らした楽しい世界一周クイズラリーを企画してくれた。

また、博物館からは、普段手で触れることのできない貴重な笛や太鼓、お面や帽子、民族衣装、木靴などを貸し出してくださった。子ども達は資料にじかに触れ、音を出し、民族衣装をまとう体験をさせてもらった。

世界の貴重な民族資料を目の当たりにし、手で触れる体験を通して、子ども達は世界にはいろいろな人がいるんだな、いろいろな文化があるんだなということを実感し、興味ある国の文化に夢をふくらませたことと思う。

民族資料博物館での世界一周クイズラリーは、大成功であった。

■ 児童教育学科 | 8月6日(土) | 下川辰彦 (児童教育学科 准教授/日本美術院特待)

## 児童教育学科オープンキャンパス「夢をあたえる絵画工作教室」

大学見学で来学した高校生を対象に、民族資料博物館で展示資料を鑑賞しイメージをふくらませた後に、彩色カードを用いたコラージュを作成し、図形の平面構成の面白さを体験してもらった。次に、複数の液体絵具を水面にたらし、無地の団扇の面を浸し、表面に偶発的に生じた色の組み合わせを写す体験をしてもらった。

こうした絵画工作の方法は、絵画彫刻を制作することが不得手の学生にも、人間誰もが与えられた高い造形感覚を実感することができる。

将来、教師を目指す若者に向けて、人間共通の秀でた感性をひきだしていくことの難しさと、それを認識した経験における魅力を伝えることの重要性を指摘することが、本催事の目的であった。

## 夏休み企画「世界の民族と文化探検ツアー展示」

|| 展示 || 8月5日(金)～9月2日(金) | 民族資料博物館 | || 常設展示 || 地域研究エリア/シルクロード室 |

夏休み始動時期に毎年本学で開催する一大イベント・夏のオープンキャンパス行事にあわせて、来学者層が児童から高校生、一般までを想定し、博物館の常設展示をより身近に鑑賞していただくことにしました。小テーマをもうけて各大陸地域の特色をイメージしやすくするために絵図や写真パネルを設置し、また日ごろから質問頻度の多い

展示資料については、期間限定で新たに大きめの文字とデザイン画による解説を加える工夫をしてみました。今後は毎年異なる副題をもうけるなどして、収蔵資料の魅力を一層ひきだす紹介方法を考えていきたいと思っています。ちなみに、今年の副題は「世界の自然気候」でした。(原田)



企画行事ポスター



解説パネルを加えた展示室



児童向け解説等の一例

## 開館記念特別講座「古典絵画(絹絵)を描く」スタート!

|| 実施期間 || 9月7日(水)～2012年1月末(予定) | 民族資料博物館/71号館図工・造形室 |

下川辰彦 (児童教育学科 准教授/日本美術院特待)

当館の開館を記念して、シルクロードに関連したワークショップを開催したいと博物館より相談をうけ、自分にできることであれば協力をいとわないと思い快く引き受けることにした。テーマを「絹絵」としたのは、日本画のなかでも仏画をはじめ古典的な技法を理解して初めて制作できるものであり、高度な技術を要する。素材に触れて伝統の画法を紹介するには最適であるとして決めた。開催にあたっては、大学に特別に許可を得て絵画実技の連続講座の開設が実現した。受講生の募集については、博物館

ホームページやチラシ、新聞等をつうじて一般に募ったところ、定員を越える反響をいただいた。選抜20名の受講生は、日本画経験者から初心者までさまざまだが、和紙、絹、墨や顔料などの日本画独特の画材の扱い方を、画家の観点からそれぞれの進行に応じて、柔軟に対応している。画業50年をむかえるにあたって、これまでの自身の研究過程で得たものを、芸術文化を愛する周囲へ伝達する機会になればと考えている。完成作品は博物館において一堂に展示する予定である。



講座における制作風景





## ◇秋季 シルクロード企画展示

## 「カシミアショールとペイズリー文様」

期間：11月15日(火)～2012年1月13日(金)

場所：シルクロード室、多目的室

協力：シルクロード絨毯ミュージアムほか

## ◇シルクロード企画

## 「シルクロード企画 秋季連続講演」

場所：リサーチセンター大会議室

## 講演 1

## シルクロードと織物 「カシミアショールとペイズリー文様」

日時：11月15日(火) 14時00分～

講師：道明三保子(文化学園大学 名誉教授)

司会：宇治谷 恵(民族資料博物館 副館長)

## 講演 2

## 「シルクロードと人類の移動」

日時：11月24日(木) 14時00分～

講師：嶋田義仁(名古屋大学大学院文学研究科 教授)

司会：和崎春日(民族資料博物館長・国際関係学部長)

## 講演 3

## 「美の起源について考える」

日時：12月1日(木) 14時00分～

講師：木下長宏(元 横浜国立大学 教授)

司会：千葉成夫(人文学部共通教育科 教授)

## 1 月 宮本正興教授 退職記念展示 (予定)

長年にわたるアフリカ研究への情熱とその軌跡を紹介。

2 月 開館記念特別講座  
「古典絵画(絹絵)を描く」制作作品展示 (予定)

実技ワークショップの受講生による制作作品の発表展示。

## 「書に綴る 砂漠の詩」(仮称)

書家 原田凍谷と学生によるコラボレーション

## 委員等紹介 (民族資料博物館運営委員等)

大西良三	学園長(運営委員会オブザーバー/アドバイザー)
和崎春日	民族資料博物館 館長/国際関係学部長 専門はアフリカ地域研究、文化人類学。日本でもアフリカでも、都市や複雑社会の人類学的研究を行い、「暗黒大陸」や途上社会の意志や主体性を描こうとしている。最近、アフリカ人の海外進出を対象に、中国・ベトナム等にもアジアにもフィールド研究を広げている。
宇治谷 恵	民族資料博物館 副館長(次長/学芸員)
中山紀子	国際文化学科教授 文化人類学専攻、対象地域トルコ。1992-1993年の1年間トルコ黒海地方農村での現地調査を行ない、トルコの世俗主義、イスラーム、女性の相互関係を探求した。現在は調査地の村出身の移民を追ってドイツやベルギーにて調査中。
杓谷茂樹	国際文化学科教授 一般にイメージされている「マヤ文明」の正体とはいったい何なのかという根源的な興味のもと、近年メキシコのキンタナ・ロー州とユカタン州における遺跡観光に関する調査を通して、マヤ文明イメージに関する観光人類学的研究に従事している。
財部香枝	国際文化学科准教授 専門は科学史・博物館学。スミソニアン協会(本部はアメリカのワシントンD.C.)の博物館に関心があり、同協会アーカイブスの研究協力者を務める。
中野智章	国際文化学科准教授 古代エジプト文明の盛衰や後世に与えた影響について研究し、サッカーの階段ピラミッド調査やハルガ・オアシスのアル・ザヤーン神殿調査に参加している。元学芸員(古代オリエント博物館)としてエジプト関連の展覧会に携わることも多い。
渡邊欣雄	中国語中国関係学科教授 専門は文化人類学(社会人類学)、文化地理学、日本民俗学(沖縄民俗学)、東アジア研究。最近の研究テーマは、東アジアの風水思想研究、中国宗教の市場経済化研究、中国のコミュニティづくりの研究、沖縄の文化創造の研究など。
澁谷鎮明	中国語中国関係学科教授 専門は人文地理学、韓国研究。主な研究テーマは、東アジアの風水思想の展開、日本近代植民都市・農村研究、東アジアの近代都市圏・古地図研究、沖縄の集落移動研究などである。特に中国と日本には含まれた朝鮮半島・台湾・沖縄といった地域の社会・文化・生活環境のありように関心を抱いている。
千葉成夫	人文学部共通教育科教授 私は美術史研究からスタートし現代美術研究へと進んできた。現代美術とは今の美術だから、価値判断(批評基準)なしには踏み込めない。だから私は美術評論家でもある。美術館に25年ほど勤務したが中部大学へ来てもう12年目になる。
福山泰子	人文学部共通教育科准教授 名古屋大学大学院在籍時より、アジア特にインド美術を学ぶ。専門はインド、マハーラーシュトラ州に位置する世界遺産アジャンター石窟寺院の美術史研究であるが、密教美術やヒンドゥー教美術の研究調査も行っている。
下川辰彦	現代教育学部児童教育学科准教授 日本画家として現代作品を制作する一方、児童から社会人まで美術教育の実践指導面で教育活動を続けている。かつて法隆寺金堂壁画模写制作事業に参加し秘伝とされてきた古典絵画の伝統的な技法や素材の研究も行っている。
鈴木裕利	工学部情報工学科准教授 ネットワーク上での各種情報システムとその要素技術に関する研究を行っています。ミュージアム、防災、教育システム等に関する課題について、ソフトウェア工学、認知科学の両アプローチから取り組んでいます。
井畑耕三 吉崎真琴	管財部長/管財部次長 図書館の増築にあわせて博物館の構想がなされた段階から、施設のあり方や展示方法についてトップの指示のもと取り組んできました。シルクロード関連の展示や中南米のコレクションなどオープニング時には資料点数の豊富さに改めて驚いております。
松村 悟	国際関係学部事務長
原田千夏子	民族資料博物館 事務員(学芸員) 専門は美学美術史・美術教育。大学博物館が学内外に教育普及の現場として貢献できるよう努めていきたいと思っております。
<b>【博物館スタッフ】</b>	
佐藤 尚子(民族資料博物館 非常勤嘱託事務員)、 安藤 佳子(民族資料博物館 非常勤嘱託事務員) 村井 美志乃(民族資料博物館 臨時補助員)、 宮沢 桂子(民族資料博物館 臨時補助員)	